

茨城大学人文学部

小美玉市と連携協定を締結

茨城大学人文学部は、小美玉市との間で地域連携に関する協定を9月29日に調印した。

調印式には、学部側から佐川泰弘学部長、澁谷浩一副学部長、馬渡剛准教授など5名が、小美玉市からは、島田譲一市長、島田誠一郎市長公室長など6名が出席した。

席上、斎藤義則人文学部市民共創教育研究センター長が、連携協定の趣旨や活動事業を説明。その後、佐川学部長と島田市長が協定書に調印した。同時に、同学部が地域連携協定を結んでいる自治体で組織する自治体円卓会議への10番目の加入自治体となる文書への調印も行われた。

佐川学部長は、「今後の教育に地域自治体との連携協力は重要であり、現場を学び課題解決ができる人材を育てたい」と強調するとともに、茨城空港を抱え、地域振興に特色ある施策を進めている小美玉市との連携する意義や期待を語った。

これに対し、島田市長は、「まち・ひと・しごと創生」の諸政策を展開するため、COC 拠点の一つとして指定を受けている茨城大学からの支援の要請があった。

報道機関からの質疑の後、記念撮影し、閉会となった。協定調印を記念したシンポジウムを年度内に小美玉市で開催することが決まった。



佐川学部長 島田小美玉市長

人文学部と小美玉市は、従来から①まち・ひと・しごと創生有識者会議への参画②市へのインターンシップ学生の派遣③小美玉市の会議で地方創生に関する県外の先進事例を人文学部が報告する意見交換会－などの活動を続けてきた。協定締結により、相互が協力して、地域の発展と人材育成を図ることなどを確認した。

今後は、地域特性を生かした産業の振興とまちづくりの推進、地域の発展に寄与する人材の育成や人材交流の促進による地域コミュニティの活性化、地域の政策課題に関する共同研究などの事業を連携・協力して行う予定である。